



# “ジュネーブから今を見る” 今日のヘッドライン

グローバル

2018年4月18日

## IMF、世界経済の成長率予想を据え置くも、注釈付き

今回の世界経済見通しでIMFは、世界全体の成長率は3.9%に据え置きましたが、現在の成長率の水準は景気循環のピークとIMFは見ています。経済成長率は、20年以降に、潜在成長率に向け緩やかに低下する展開を見込んでいます。

### IMF世界経済見通し：堅調な世界経済予想を維持、ただし20年以降は成長鈍化を見込む

国際通貨基金(IMF)は2018年4月17日に公表した世界経済見通し(WEO)で、世界経済成長率が向こう2年は2011年以來の高水準を維持する見通しであると述べています。IMFは18年と19年の世界成長率予想を前回(18年1月時点)予測と同じ3.9%に据え置きました(図表1、2参照)。一方、力強い成長局面が終了する種は既にまかれているとして、20年以降の成長に懸念を示しました。

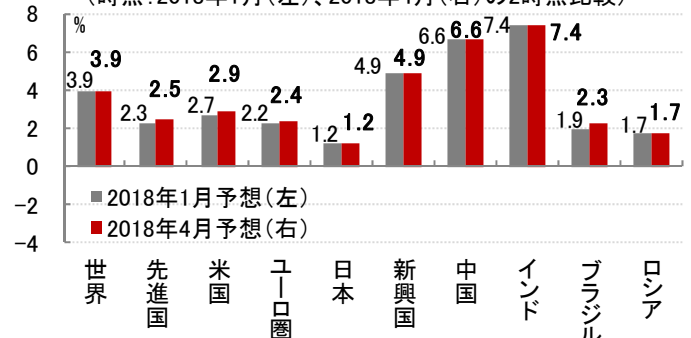
#### どこに注目すべきか：

#### WEO、財政政策、構造改革、通商政策

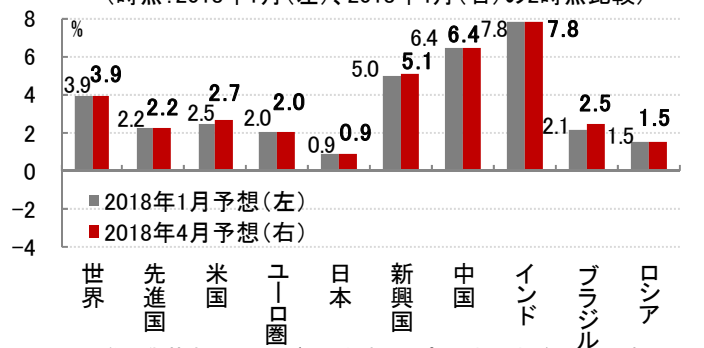
今回の世界経済見通しでIMFは、世界全体の成長率は3.9%に据え置きましたが、現在の成長率の水準は景気循環のピークとIMFは見ています。金融緩和は最終局面であること、財政政策の縮小見通し等から、経済成長率は潜在成長率に向け、20年以降緩やかに低下すると見込んでいます。米国の通商政策には成長率のリスク要因と懸念を示しています。個別の国・地域の特色は以下の通りです。  
米国の成長率見通しは、堅調な輸出、予想以上の景気改善傾向、17年末に成立した減税実施等を踏まえて18年を2.9%、19年を2.7%と前回から両年とも0.2%上方修正しました。一方で、IMFは減税など財政政策の縮小や政策金利引き上げが徐々に米国の景気回復を鈍化させると見えています。  
次に、日本、中国、インド、ロシアは前回からの新たな変化は限定的で据え置かれました。一方、南アフリカ(18年は1.5%と+0.6%増、19年は1.7%と+0.8%増)やブラジルは共に上方修正されています。ブラジルは年金改革が暗礁に乗り上げていますが、これまでの構造改革を評価しています。南アフリカも

新政権の下で進められている改革が評価されています。一方、中東などは原油価格は安定するも、収入を依然原油に依存し、財政再建の必要に迫られることから成長率見通しが引き下げられています。IMFは米国の経常赤字の原因は米国の支出と所得の不均衡にあり、関税による解決策に疑問を呈すと共に、二国間でなく(既存の)多国間交渉を重視すべきと苦言を呈しています。

図表1：IMFの主な国・地域の2018年経済成長見通し  
(時点：2018年1月(左)、2018年4月(右)の2時点比較)



図表2：IMFの主な国・地域の2019年経済成長見通し  
(時点：2018年1月(左)、2018年4月(右)の2時点比較)



出所：国際通貨基金(IMF)のデータを使用しピクテ投信投資顧問作成



ピクテ投信投資顧問株式会社

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。